

大在地域ビジョン会議 通信

第2号

発行：大在地域ビジョン会議事務局

この通信は、地域ビジョン会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

地域ビジョン会議の目的

本市においても、今後、人口が減少に転じることが予測され、地域コミュニティの活性化や効率的な行政運営等々諸課題への対策が求められています。

これら課題の解決には、行政が市民の意向や地域の実情を的確に把握し、市政への反映に努めることが重要です。

このような中、市内 13 地域において、地域の代表者等で構成する『ビジョン会議』を設置し、議論を深めそれぞれの特性を踏まえた「地域まちづくりビジョン」としてご提言いただきます。

第2回大在地域ビジョン会議



■平成 29 年 7 月 31 日（月）19：00～

■大在支所 第 3 会議室

開会

一、議事

1. 第 1 回ビジョン会議の補足説明

・ 事前送付資料における説明

・ 「大在地域ビジョン会議通信」の発行について

2. これからのまちづくりについて

・ 「都市計画マスタープラン」について

・ 「大分市立地適正化計画」について

3 ワークショップ

まちづくりビジョンのコンセプトを（テーマ）見出す

二、その他

閉会

これからのまちづくりについて…事務局からの説明

事務局よりこれからのまちづくりについて各計画の説明を行いました。

1. 大在地区における都市計画について（都市計画マスタープランの概要）

本地区は、大野川河口部右岸地域において市街地が形成されています。JR 日豊本線の北側一帯が土地区画整理事業により整備され、計画的な土地利用の誘導が図られています。このような土地区画整理事業や臨海部の埋め立てによる工業開発や公共埠頭の利用促進を図ることで、本市の産業発展を担う重要な地区として期待されています。

このようなことから本地区は、「緑で飾られた新業務拠点、住宅地域の形成」をまちづくりの目標とします。

2. 大分市立地適正化計画について

大分市では、昭和 39 年の新産業都市の指定後、急激な商工業の発展と人口増加にあわせて、市街地が拡大し、都市基盤施設の整備などを推進してきたことにより、拡散型の土地利用が進行しました。そのため、今後、少子高齢化等の進展による人口減少及び人口密度の低下に伴い、税収の減少による財政規模の縮小、生活利便施設や公共交通の縮小等が予測され、人々の暮らしに様々な影響を及ぼすことが懸念されます。

高齢者や子育て世代にとっては、安心できる健康で快適な生活環境を実現すること、財政面及び経済面において持続可能な都市経営を行うこと、災害から人命を守ることなどを推進していくため、都市の基本構造の在り方の見直しを行うなどの集約型都市構造へと転換する必要があります。

以上のことから、都市機能や居住の誘導に関する具体的な方策の検討を行い、都市再生特別措置法第 8 1 条に基づく「立地適正化計画」について、平成 30 年度末の公表を目指して作成を進めています。



大在地域まちづくりビジョンのコンセプトを見出す・・・委員によるワークショップ

ワークショップの流れ

【ステップ1】
重みづけ



【ステップ2】
ブレインストーミング



【ステップ3】
親和図作成



まちづくりのコンセプト
(理念)成果発表



【ステップ1】重みづけ(地域が重点的に取り組む施策の傾向を読み取る)

委員の皆様には、2班に分かれていただき、大分市総合計画の6つの「基本的な政策」に対し、ふだん気になることや問題に思っている重点項目に一人5枚のシールを貼っていただきました。

《1班:世代がいっぱい班》 班長:田中委員より発表

班名は、愛がいっぱい、世代がいっぱい。大在地域は、子どもたちが多く、元気なご年配の方たちがいらっしゃる、また若い人たちも元気で働いている方が多いので「世代がいっぱい班」と名付けました。

社会福祉の部分で「子ども子育ての充実」等の項目に4ポイント付いています。「地域コミュニティの活性化」については昔は住民同士の交流が多くあったと感じていますが、現在不足していると感じているのでポイントが付いています。「教育・文化の振興」では、子どもたちのことを考えて付いています。「スポーツの振興」では、大在はスポーツの町だということで付いています。防災の部分では、「危機管理の確立」、「治山・治水対策の充実」項目で、山や海が近くにあります。これは良い面でありながら、弱い部分でもあると思っています。「工業の振興」「商業・サービス業の振興」、では働く所が無いと人口も安定しないし、豊かなまちにもならないので付いています。「都市基盤の形成」は、区画整理が終わった部分と山の方で区画整理外のところがあるので付いています。

【ポイントを多く入れた項目】

- 子ども・子育て支援の充実・・・(4)
- 高齢者福祉の充実・・・(4)
- 障がい者(児)福祉の充実・・・(4)
- 地域コミュニティの活性化・・・(3)
- スポーツの振興・・・(3)
- 防災・危機管理体制の確立・・・(3)
- 商業・サービス業の振興・・・(3)



《2班:福スポ》 班長:後藤委員より発表

班名は、福祉とスポーツが一番多いということで「福スポ」と名付けました。

「社会福祉の充実」ということで、この中に2項目あります。特に重点項目が「子ども・子育て・高齢者福祉の充実・障がい者(児)福祉の充実」に多くのポイントが付きました。「健康づくりの推進」では、大在の中はけっこう自転車で走りながら楽しめる所があるのではないかとということで、健康づくりと一緒にやろうということで、ここに付いています。そして、なんといっても大在はスポーツが昔から伝統のある地区なので、「スポーツの振興」。あとは、防災の方は「防災・危機管理体制の確立」や「消防・救急体制、交通安全の推進」。また、これには1つずつしか入っていないのですが、安定した生活の形成ということで、安全で快適な住宅の整備、また公園・緑地の保全と活用ということでこちらも入っております。

【ポイントの多く入った項目】

- 子ども・子育て支援の充実・・・(3)
- 高齢者福祉の充実・・・(3)
- 障がい者(児)福祉の充実・・・(3)
- 安全で快適な住宅の整備・・・(3)
- 公園・緑地の保全と活用・・・(3)
- 地域福祉の推進・・・(2)
- スポーツの振興・・・(2)
- 消防・救急体制の充実・・・(2)



【ステップ2】ブレインストーミング(思いついた地域の魅力や課題を書き込む)

【ステップ3】親和図作成(問題点と課題点の整理)

各班で、思いついた地域の魅力や課題をポストイット(付箋紙)に書き込み、親和図に共通点を施策単位でまとめ、コンセプトを考えました。

《1班:世代がいっぱい班》 施策毎のポストイットの内容

■福祉・・・(8)

・高齢者が健康づくりをする町でありたい・高齢者が大事にされる地区でありたい・健康寿命を伸ばしたい・高齢者、子ども達を大切にする意識と行動の精神がある・3世代が一緒に暮らす・平成40年度以降の急激な高齢化対策が必要・大在駅のバリアフリー化を1日も早く進めてほしい(エレベーターの設置)・展示ブロックが少ない

■教育・文化・・・(10)

・日本文理大学が近くにあり、大学見学にも活用出来る・子どもの健全育成・子どもにとってのふるさとづくり・大学生を活用していない・地域子ども見守り隊の今後の充実を図る・街づくりのための人材づくり・学童クラブをみたことがない・子ども達の交流・子どもの多い地区であり、子どもは未来だから 他

■防災・・・(13)

・第2江川の水門対策・大野川の水害、津波対策・丹生川の津波対策・メガソーラーの津波による2次被害が怖い・向こう三軒両隣付き合いが弱い・第1江江南側の水門からの浸水被害対策・国家100年の計は人を育てることである。教育に力を入れるべきである。・津波の避難場所がない・川4本に囲まれ津波のかけ上がりに弱い・防災対策、避難場所の確保を！・沖一文字の防波堤高波、津波対策・治水、ため池の整備、集約・山、川、海があることで災害も多い

■産業・・・(9)

・駅前通りの盛り上がり・企業を呼び込み(雇用)・商店街がない・回遊できる街づくり・働く場所が非常に少ない・会社が少ない・6号地活用・大在オリジナルブランドがほしい・将来の安定化に向けたビジョンがない

■都市・・・(8)

・大型スポーツ総合施設がほしい・公共の駐車場がない(駅周辺)・世代間交流をもっと！・大在にアウトレットモールは出来ないか？・197号の路線バスが少ない 他

■環境・・・(4)

・歩道の段差が大きい・大在は公園の多い地区であるが、有効に利用したい 他



《2班:福スポ》 施策毎のポストイットの内容

■福祉・・・(4)

・高齢者が増加傾向にある・障がいをもっている子どもたちの卒業後・高齢化の進行で近所での助け合いが必要・高齢者が多くなるので福祉センターの充実

■教育・文化・・・(7)

・大学の存在による経済効果と発信力・学校の先生と家庭との連絡、連帯がうすい・芸術について屋内型のステージを備えた音楽公会堂の施設が無い・地域の未来を創る若い力が多い→教育環境の充実・アパートが多く、子育て世代が多い。共働きによる子育て時間の減少・大在は昔から体育教育が優れていた。学校教育だけでは足りない スポーツ振興システムがほしい→体育館・子どもも多いのでスポーツの出来る場所の充実

■防災・・・(5)

・主要場所への防犯カメラの設置・災害時の避難場所が人口の割に少ない・現実的なハザードマップ 災害対応・歴史上の根拠となる古文書から見て、浸水に対する予想が過少である・交通事故をなくすためにすべきソフト・ハード面の整備

■産業・・・(3)

・地区内に企業が少ない。働く場が少ない・6号地が大在の玄関口として発展すれば人口も増加・港と液化天然ガスから排出される熱をリンクする事で生まれる産業・リゾート

■都市・・・(8)

・サイクリングの先進地となるように、自転車専用道路の整備・周囲4km四方のコンパクトな都市を周回できるサイクリングロードの整備が望まれる・大在駅南地区197号定期バス路線が必要・商業の活性化 大在地区以外の人が集う町・大在に目玉を作る・松林の整備活用・観光に資する文化施設(美術館等)の整備・大在駅前のいこいの場として公園施設の充実を図り、子どもや高齢者のゆっくり遊べる場所(大在公園)

■環境・・・(3)

・大在地区全体をバリアフリーの観点から見直して計画的に整備すべきである・国道197号に街路樹が少ない 緑が必要・角子原の山を自然公園として整備すべきである



まちづくりのコンセプト(理念)成果発表

各班長がそれぞれの意見を取りまとめて導いたコンセプト(理念)の発表をおこないました。

《1班:世代がいっぱい》

コンセプト: **愛してるみんなのまちおおざい** ~安全で明るく楽しいまちづくり~



班長: 田中委員より親和図について発表
重みづけでは、あまり感じられていなかったが、ポストイットを貼っていくと防災関連が急に増えて来ました。海が近いので、津波や、ため池、河川の氾濫というのが出てきました。教育・文化では文理大生への意見などとても貴重な意見が出ましたので、各世代が文理大生とより交流していく必要があると、改めて感じさせられました。産業においては、商店街がない、会社が少ない、また駅前通りの盛り上がりがいまひとつ、という意見がありました。

下地委員よりコンセプトの発表

1班は班長から「愛してる」という直接的な言葉がすごくストレートだったので活用し「愛してるみんなのおおざい」としました。最初に子どもたちに帰省をしてほしい、帰ってきて欲しいという話がありました。

これから活性化していく大在のまちを愛していただけるまちにしていくという思いです。

私は沖縄県から来て、季節を初めて感じています。桜があって、海があって、山があって、大きな川があって、すごく魅力的で大在が好きです。

あとサブタイトルができて、「安全で明るく楽しいまちづくり」としました。災害のこととかも対策がこれからなのかなと。でも明るい方に向かっていけばいいのかなと思っています。



《2班:福スポ》

コンセプト: **魅力あるみんなで作る元気なまち-Machi**



班長: 後藤委員より親和図について発表

福祉の方では、高齢者が増加傾向にあるということで意見が書かれています。教育・文化という点では、文理大がありそれに伴う経済効果、情報の発信力に対して期待している。防災・安全の面では、主要場所への防犯カメラの設置などが出ました。交通事故をなくするためにソフト、ハード面の整備など、また産業の方では、地域に企業が少なく、大企業が無いとか、6号地が大在の玄関口として発展すれば企業も増加するのではないかななどの意見が出ました。都市基盤の方では、松林の既存遊歩道の整備、大野川の河川道路に松林を整備してサイクリングロードを併設する。環境の方なのですが、角子原の山を自然公園として整備するであったり、大在地区全体をバリアフリーの観点から見直して計画的に整備すべきである、というようなことです。

班長: 後藤委員よりコンセプトの発表

コンセプトは、「魅力あるみんなで作る元気なまち-Machi」としました。魅力あるということで、便利が良いであったり、文教地区、安全・安心、ということ。みんなで作るということで、小さい世代からおじいちゃんおばあちゃんの世代までみんなで元気に大在のまちづくりということで。元気は、先程から言っていますがスポーツが盛んということで、この中でスポーツと言うより元気という言葉でスポーツを表しているということです。おしゃれに「Machi」と付けました。

